

平成23年9月28日公表

平成23年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (大分県)

－ 水稲の10a当たり予想収量は515kg(作況指数102)の見込み －

【調査結果の概要】

1 大分県における平成23年産水稲の作付面積(青刈り面積を含む)は2万5,800haで前年産に比べて100ha増加しました。

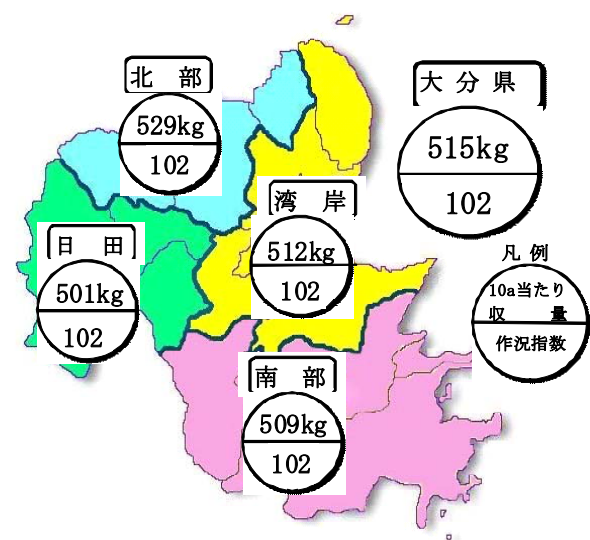
水稲作付面積から、需給調整の取組として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の面積を除いた主食用作付見込面積は2万3,400haが見込まれます。

2 9月15日現在における水稲の作柄は、穂数がやや少ないものの、1穂当たりもみ数が多く、全もみ数がやや多いことから、10a当たり予想収量は515kg(作況指数102)が見込まれます。

地域別には、北部が529kg(同102)、湾岸は512kg(同102)、南部は509kg(同102)、日田では501kg(同102)となっています。

3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は12万500tが見込まれます。

図 水稲の作柄表示地域別
10a当たり予想収穫量及び作況指数
(9月15日現在)



区分	作柄表示地域に包括される市町村
北部	中津市、豊後高田市、宇佐市
湾岸	大分市、別府市、杵築市、姫島村、国東市、日出町、由布市
南部	佐伯市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市
日田	日田市、九重町、玖珠町

- 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積(見込み)です。
- 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。
- この調査は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測したものです。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

この資料は九州農政局ホームページ大分地域センターの「大分の統計情報」

【http://www.maff.go.jp/kyusyu/oita/toukei_jouhou/toukei_sokuho.html】でご覧になれます。

この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の仕様】5Pに掲載しています。

次回は、10月下旬に予想収穫量調査として公表予定です。

【調査結果】

穂数は、5月下旬から6月中旬までの日照不足で初期生育が抑制されたことと、高温障害回避等のための粗植推進で1㎡当たり株数が減少したことにより1㎡当たり全穂数がやや少なくなりました。

もみ数は、穂数が減少した補償作用によって1穂当たりもみ数が多くなったことから、1㎡当たり全もみ数が平年に比べてやや多くなりました。

地帯別には、日田の1㎡当たり全もみ数が多く、北部と湾岸、南部はやや多くなりました。

出穂は、8月に曇雨天の日が多く日照時間が少なかったことから生育が遅れ、平年及び前年に比べて3日遅い8月27日が最盛期となりました。

登熟は、1㎡当たり全もみ数が多いことから、稔実や粒の肥大・充実等への影響が懸念されます。

病虫害については、いもち病の発生がやや多い地帯がみられますが、内穎褐変病やスクミリングガイ、鳥獣害は平年並みの発生となっています。ウンカやカメムシ、コブノメイガ、紋枯病の被害は平年に比べてやや少なくなっています。

また、本県に接近した台風第12号によって沿岸部の一部で倒伏や籾ずれ等による被害が見られましたが、被害程度は軽微なものとなりました。

表1 作付面積及び10a当たり予想収量

区 分	作付面積（青刈り面積を含む）			10 a 当たり 予想収量 ①	（参 考）	
	実 数	前年産との比較			主食用作付 見込面積 ②	予想収量 （主食用） ③=①×②
		対差	対比			
大 分 県	ha 25 800	ha 100	% 100	kg 515	ha 23 400	t 120 500

注：主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）です。

表2 作柄概況

区 分	10 a 当たり 予想収量 ①	（参考）		平 年 比 較			
		10 a 当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	穂数の 多 少	1 穂当たり もみ数の 多 少	全もみ数 の 多 少	登熟の 良 否
大 分 県	kg 515	kg 503	102	やや少ない	多 い	やや多い	やや不良
北 部	529	517	102	やや少ない	多 い	やや多い	やや不良
湾 岸	512	500	102	やや少ない	やや多い	やや多い	平年並み
南 部	509	498	102	やや少ない	多 い	やや多い	やや不良
日 田	501	490	102	やや少ない	多 い	多 い	やや不良

○ 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり（予想）収量の比率です。

○ 10 a 当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいいます。

表3 平成23年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

作柄表示 地帯	出穂期					刈取済 面積割合
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		
				対平年	対前年	
月日	月日	月日			%	
大分県	8. 3	8. 27	9. 3	3日遅	3日遅	4
北部	7. 27	8. 31	9. 6	4日遅	4日遅	4
湾岸	8. 5	8. 28	9. 3	2日遅	3日遅	4
南部	8. 6	8. 24	9. 1	3日遅	2日遅	3
日田	8. 6	8. 19	8. 25	2日遅	1日遅	5

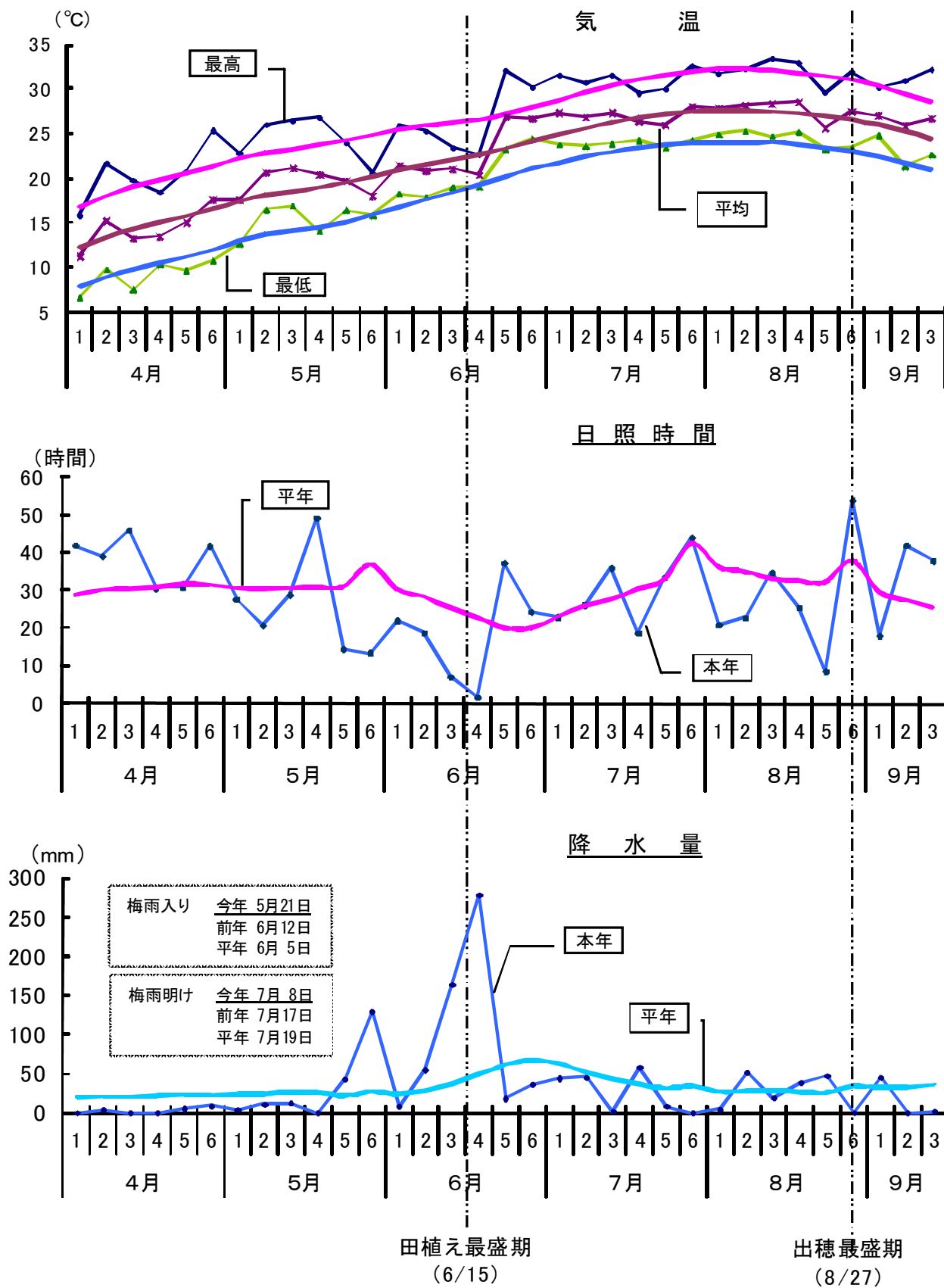
○ 出穂期の「始期」は出穂済みの面積割合が5%、「最盛期」は同50%、「終期」は同95%に達した期日です。

【関連するデータ】

1 水稻の年次別推移（大分県）

年産	作付面積 (子実用) ha	10a当たり 収量 kg	収穫量 t	作況指数	10a当たり 平年収量 kg	主な要因
昭. 54	40 000	481	192 400	108	446	
55	38 700	357	138 200	79	452	異常低温、長雨
56	37 100	480	178 100	106	452	
57	37 000	421	155 800	92	458	日照不足
58	37 000	455	168 400	99	458	高温障害
59	37 300	490	182 800	107	458	
60	37 600	484	182 000	105	462	
61	37 000	482	178 300	103	466	
62	34 200	416	142 300	89	470	風水害、日照不足
63	33 400	468	156 300	100	470	風水害、日照不足
平. 元	33 200	487	161 700	104	470	
2	32 700	461	150 700	98	472	水害、台風、高夜温
3	32 000	392	125 400	83	474	台風、天候不順
4	33 000	493	162 700	104	474	
5	33 800	367	124 000	77	474	冷夏長雨、台風
6	34 700	590	204 700	124	474	高温多照、少雨、干害
7	33 300	519	172 800	109	474	高温多照、少雨
8	30 800	492	151 500	104	474	
9	30 500	479	146 100	100	478	
10	28 200	499	140 700	104	478	
11	27 800	387	107 600	80	485	台風、日照不足
12	27 500	516	141 900	105	490	
13	26 800	512	137 200	104	490	
14	26 400	513	135 400	103	496	
15	26 100	485	126 600	97	498	長雨、日照不足
16	26 200	432	113 200	86	501	台風16, 18, 21, 23号、日照不足、秋雨前線停滞
17	26 200	459	120 300	91	503	台風14号、高温障害(乳白)、ウンカ
18	26 200	395	103 500	79	503	日照不足、台風13号、潮風害、内穎褐変病
19	25 900	493	127 700	98	503	ウンカ、紋枯病
20	24 800	519	128 700	103	503	高温多照、少雨
21	24 800	502	124 500	100	503	
22	24 400	495	120 800	98	503	高温、整粒不足、形質低下

2 平成23年気象グラフ平年比較（大分市）



資料：大分地方気象台「アメダスデータ」

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲作付面積調査及び水稲作柄概況調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

大分県

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：865単位区 巡回・見積り：18市町村

(2) 作柄概況調査

作況標本筆：185筆 作況基準筆：12筆 巡回・見積り：18市町村

4 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況。

5 調査期間

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 作柄概況調査：9月15日現在

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行いました。

(2) 作柄概況調査

調査は、作況標本筆、基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査及び作況基準筆調査に基づく巡回・見積りにより行いました。

7 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめています。

(2) 作柄概況調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

8 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S 用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。

(2) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(5) 登熟の良否とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。

(6) 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較です。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

(7) 作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率です。

(8) 10a 当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a 当たり収量をいいます。

9 利用上の注意

作柄概況調査（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行っています。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

【関連リンク】

九州各県

九州農政局ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/index.html>

全国

農林水産省ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>



問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局大分地域センター

農政推進グループ 生産流通消費・審査班

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局大分地域センター

農政推進グループ 統計企画係

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820